

令和3年度 青山保育園自己評価表

A：達成できている
B：ほぼ達成できている
C：少し努力を要する
D：努力を要する

内容	評価				来年度への改善策
	A	B	C	D	
(数字は%)					
I 保育の計画性					園内研修を利用し、共通理解を更に深めたい。
1, 園の保育理念・保育方針の理解					そして、計画・実践・反省・改善へとつなげていくようにする。
① 園の保育理念や保育方針を理解し共感している。	20	64	12	4	
② 園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる。	12	56	28	4	
2, 保育所保育指針の理解					コロナ禍の中でも計画した事を工夫し、感染予防に考慮しながらすすめていきたい。
① 保育所保育指針を理解し幼児の姿や環境の構成、保育者との関わりなど具体的な事例を思い浮かべることができる。	12	56	28	4	
3, 全体的な計画の編成と評価					個々の状況に合わせて、柔軟に対応していく。
① 1年間の子どもの成長を振り返り、全体的な計画を評価している。	4	88	8	0	
② 園の全体的な計画は社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて、見直しを行っている。	4	88	8	0	
4, 指導計画の作成					安全を第一にして、季節や素材を感じられるような環境づくりをしたい。
① 指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活など、考慮し作成している。	16	80	0	4	
② 行事は、幼児の生活上、意義を十分検討したうえで、指導計画に組み入れる。	12	80	4	4	
5, 環境の構成					指導計画をきちんと理解し、柔軟性を高め、臨機応変な対応ができるように努力する。
① 指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような、安全で清潔感のある環境構成をしている。	28	52	20	0	
② 楽しい雰囲気の中で、安定して遊びこめるように遊具や用具、素材などの質・数量を配慮して環境構成している。	28	60	12	0	
③ 幼児の活動がより豊かになるように、幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている。	16	60	24	0	
④ 幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている。	24	48	28	0	
⑤ 異年齢の幼児が、自然に交流できるような環境構成をしている。	16	48	36	0	
6, 保育と計画の評価・反省					
① 自分の保育と評価・反省について、次の保育と計画に生かせるように行っている。	24	48	28	0	
② お互いに保育を見せあい、検討し、評価し、反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。	12	36	48	4	

II 保育の在り方・子どもへの対応					保護者や子どもに不快感を与えず、気持ちのよい対応をしながら、きちんとした視診を徹底するよう心がけていく。
1, 子どもへの丁寧な視診や対応					子どもの気持ちに寄り添いながら、援助を行う。
① 朝の登園時は特に視診を大切に、体調が悪くないかを確認している。	44	48	8	0	
② 体調が悪そうな時や万が一事故が起きた場合には、適切な処置を行い、すぐに家庭や関係機関に連絡している。	36	60	4	0	
2, 子どものみとりと理解					子どもへ共感する際に、言葉をかけたり対応したりすることで、安心できるようにする。
① 子どもの話をよく聞いたり、言葉にならないサイン、その姿にある心の動きを理解し、基本的欲求が満たされるよう配慮している。	20	72	8	0	
② 一人ひとりの子どもをじっくりと見ながら、見えないところで活動したり、遊んでいる子どもについても、ある程度その活動の様子を、推測することができる。	20	72	8	0	
③ 個々の子どもの発達の姿や、課題について見通しをもって理解できる。	12	56	32	0	
3, 指導と関わり・・・(心のよりどころとして)					歌や指あそび、わらべ歌やペープサート等を活用し、楽クラス集団をまとめているようにしていく。
① 子ども一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている。	32	64	4	0	
② 子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている。	32	68	0	0	
③ 子どもの話をよく聞くようにしている。	20	72	8	0	
④ “一人ひとり”とみんなの関係を常に考え、クラス集団をまとめている。	12	48	40	0	
(遊び・活動の援助者として)					巡回支援訪問を利用し、アドバイスをもらい、保育を見直す機会をもつ。
① 子どもが、遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	12	64	24	0	
② 子どもを褒めたり、励ましたり、めあてを持たせるような、言葉かけをしている。	32	64	4	1	
③ 禁止・命令・行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている。	20	64	16	0	
(その他)					
① 子どもの家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮して関わっていく。	12	68	20	0	
② 支援を必要とする子どもが入園してきた時、個別の対応やクラスの子どものともに育ちあえる保育を積極的に進めるように考えている。	16	40	44	0	
4, 保育者同士の協力、連携					処遇会議や巡回支援訪問の記録に職員全員が目を通し、共通理解を深め、統一性のある援助をする。
① クラスに関係なく、その場にいた保育者が、適切な言葉かけや対応をしている。	32	52	16	0	
② 指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で、特によく話し合い、共通理解をもって工夫し対応するようにしている。	12	48	40	0	
③ 保育者の価値観を尊重し、協調性をもって保育がなされている。	20	64	16	0	
④ 他クラスや異年齢の子ども達と触れ合うよう、様々な工夫、保育の形態を取り入れている。	16	36	48	0	

III 保育者としての資質や・能力・良識・適正					専門知識や技能は日々変化しているので、研修等を通じ学び直していく。
1, (専門家としての能力)					柔軟に対応できるよう、固定概念にとらわれないようにしたい。
① 保育に携わる者として、専門知識や技能を身につけている。	16	32	44	8	
② 保護者に対して、子どもの事や自分の保育の事をわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている。	16	60	24	0	
③ 保育者の人間性が、子ども達に与える影響を自覚している。	32	64	4	0	
(良識とマナー)					良識ある行動やマナーは、子どもや保護者への一番大切なものと考え、丁寧に関わり行っていく。
① 子どもや保護者との対話には、公平さをかかさないようにしている。	52	48	0	0	
② 朝と帰りの挨拶を明るく、親しみをこめて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている。	40	60	0	0	
③ 服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気を付けている。	48	48	4	0	
④ 園の消耗品や教材は節約して使い、使用に使っていない。	52	48	0	0	
(義務)					
① 教材、教具の管理、点検、園内外(自分のクラス外)の清掃や整理整頓を実行している。	24	60	16	0	
② 締め切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている。	24	56	16	4	

2, (組織の一員としての在り方)				組織の一員として楽しく保育			
①	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べる事が出来る。	24	56	20	0	ができるように心がけ、自分	
②	子どもの事、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している。	44	48	8	0	の思いを分かりやすく伝える	
③	当番や役割による仕事を理解し確実にやっている。	28	60	12	0	ように、日頃の会話を大切に	
④	上司の指示・命令には責任を持って確実にやっている。	40	48	12	0	する。	
3, (まわりを感じられる感性・アンテナ)				社会情勢、季節の変化を感じ			
①	子どもや、教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている。	20	52	28	0	とれるよう、意識する。	
②	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている。	20	64	16	0		

IV 保護者の対応・守秘義務				クラスだよりや、ホームページ			
1, 情報の発信と受信				等で、写真やイラストを使用			
①	一人ひとりの子どもについて、家庭での教育方針を把握している。	4	36	52	8	分かりやすく伝えるようにす	
②	クラスだよりなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラスト等分かりやすく、伝える工夫をしている。	16	52	28	4	コロナ禍で、保育参観はでき	
③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話したり、連絡帳、電話を使って伝え合っている。	16	64	20	0	なかったが、今後はリモート	
④	保育参観や保護者面談を定期的に行い子どもについて保育や家庭の在り方について共通理解を得るように努める	8	40	44	8	配信等を利用し、子ども達の	
⑤	保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	8	48	40	4	園での様子を、より分かりや	
⑥	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら、接するように努めている。	24	72	4	0	く伝えたい。	
2, 協力と支援				要望・意見を傾聴し、改善策			
①	保護者からの様々な訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり、無視したりしないで、園長や主任などに報告や相談をしている。	44	52	4	0	を見出していくようにする。	
②	必要な場合は、自園の苦情解決システムについて、保護者に説明できる。	4	48	48	0		
3, 守秘義務の遵守				守秘義務に関しては、徹底し			
①	職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしてはいけない。	72	28	0	0	ている。	
②	秘密情報(保護者、園児等に関する個人情報、及び、園の運営上の情報、保育技術、保育計画等の情報)について園長の許可なく使用、展示、漏洩していないか?	76	24	0	0	情報管理についても、引き続	
③	秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している。	56	44	0	0	き、しっかりと行う。	
④	秘密情報について、新たに知り得たことについては、ただちに園長に報告している。	68	32	0	0		
4, 対応上のマナー、良識				語彙力を上げるために、日々			
①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて、話しかけ相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。	20	72	8	0	努力し、肯定的な発言を心が	
②	親しくなったからと言っても、友だち同士のような話し方をしていない。	32	64	4	0	けることで、お互いが気持ち	
③	電話では簡潔に要領よく対話する事を心がけている。	32	68	0	0	よく過ごせるようにする。	
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなど、きちんと対応している。	40	56	4	0	マナーをしっかりと身に付けて	
⑤	長期の欠席や、入院の場合には見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている。	24	56	12	8	今後も取り組みたい。	
⑥	保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、障害、個別差によって、区別、差別していない。	56	44	0	0	丁寧に対応し、反省すること	
5, クレームへの対応の仕方				改善できるようにしたい。			
①	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している。	56	44	0	0		

*今年度の反省・来年度の目標 昨年の自己評価表と総合的に比較すると、A達成できている のパーセントが高くなっている。反省した点を意識し、保育に取り組んだ成果が数字に表れたと思われる。来年度も、職員一同が一丸となり、保育の質の向上に努めていきたい。職員も、子ども達と一緒に学び、先を読む力を身に付けると同時に、保護者の方々と子ども達の成長を共に喜びあえるような温かい保育をめざしていきたい。